

希望の歌

No.3 令和 2年 9月 1日 文責 加藤

8/31 始業式の日、たくさんの保護者の方、市教育委員会の先生に見守られ、生徒は元気に登校しました。部活動生徒による朝掃除や挨拶運動、生徒会の活動なども活気あふれる新学期のスタートを後押ししています。



「当たり前」の裏側は？

2年5組 学級通信の一部を紹介させていただきます。
担任で野球部顧問 矢部先生の感じたことが書いてあります。

本校が参加した3年生交流大会の県大会で感じたことがあります。それは、大会が開催されることへの**感謝の気持ち**です。今まで、大会は開かれて当然、と感じていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大第2波によって中止を余儀なくされた競技もありました。しかし、野球連盟の方々は、3年生のために素晴らしい舞台を用意してくださいました。開催するにあたり、多くの批判や指摘もあったそうです。当たり前と思っている裏側には、本当に多くの人々の努力や思いがあるのだと改めて感じることができました。これは学校生活でも言えると思います。今、学校は体育大会に向けて動き出しています。体育大会も、これまではできて当たり前、と思っていたことでしょう。しかし今、そうではないと思います。そんな中、体育の先生を中心に生徒が活躍する場を準備したい、という思いのもと学校が動いています。物事の裏側にある人々の思いに心を寄せられる、そんな人間になってほしいと考えています。

実はこの通信と全く同じ内容のことを、始業式の意見発表の時に3年生の釘本 陽菜向さんが語ってくれました。吹奏楽部に所属する釘本さんたち3年生は、目標に掲げていた吹奏楽コンクールも中止となり、9/21に開催する定期演奏会が中学校生活最後の舞台となるのですが、「こんな大変な状況の中で演奏できることに**感謝の気持ち**を持って頑張りたいです」と前向きに、力強く語ってくれたのです。

大会を、演奏会を開催してもらうことは決して「当たり前」のことではない！ 逆に「有難（ありがた）し」なのだ。『ありがとう』という**感謝の気持ち**を素直に感じ、私たちに伝えてくれた矢部先生と釘本さんでした。

ちよつといい話

八月七日（金）のことです。

部活動を終えて帰る途中、路上で苦しんでいたお年寄りに救急車が来るまで優しい言葉をかけて励まし続けた二年二組の川上 楓さん、倉本 椀詩さんの姿がありました。

《後日》

二人が助けたお年寄りの娘さんが、わざわざ学校にお礼を言いに来られました。「母は意識がはっきりしない中でも二人のかけてくれた言葉だけはしっかり覚えていて、命を助けてもらった」とベッドの上で言われたそうです。二年生の先生たちばかりでなく、その時職員室にいた先生たちみんなが、ほっこりと気持ちがあなたたかくなりましたよ！

学年主任の 一門先生が書かれた二年学年通信

啐啄同機Ⅱより

～ 子どもたちが安心して学校生活を送るために ～ 新型コロナウイルスの感染に関して、他人事ではなく、自分事として捉えるために、『もし、あなたの家族が濃厚接触者であることがわかったら、あなたはどんなことが不安になりますか』ということ、始業式の中でみんなで考えてみました。市教育委員会からのプリント「子どもたちが安心して学校生活を送るために」（別紙）を参考に、ぜひご家庭でも話題にしてください。

physical distance, but close at heart (人と人の距離はとっても、心と心の距離は密に！)